

顔 The Face

予防主体の質の高い 医療を実践する歯科医師 熊谷直大

未来イノベーション WG 委員



予防メンテナンスがもたらす 健康価値を次世代へつなぎたい

3月19日、政府は「未来イノベーションワーキンググループ (WG)」の中間とりまとめを発表した。委員の中に歯科では熊谷直大氏 (日吉歯科診療所 汐留所長) が参画している。一開業歯科医師がわが国の未来の医療福祉分野のあり方を考える有識者会議で意見を求められているのだ。本欄では、熊谷氏に2040年の医療のあるべき姿と歯科の可能性についてうかがった。

熊谷：現在、政府は高齢者の数がピークを迎える2040年頃を見据え、持続可能な社会保障制度とするために議論を進めています。未来イノベーションWGでは、私は「予防」グループの中で歯科での経験から発言しました。

まず、2040年の医療福祉サービスを取り巻く社会情勢については、予防医療の発展によって慢性疾患・生活習慣病になる人とならない人の高齢時の健康差が顕著に現れ、それを見た多くの若い人々が予防によって病気にならない人生を選んでいると思います。つまり、「医療福祉サービスの価値＝患者・市民の健康そのものの価値」とい

うことです。

そのうえで2040年に医療福祉サービスに求められることとして、①医療の卓越性、②予防を主体とした医療教育、③エビデンスに基づく検査、診断、治療計画、治療、予防、看護・介護の徹底、④タスクシフティング、⑤追加的医療サービス——などが挙げられます。今後、医療福祉サービスは周辺産業を取り込む形で発展し、医療福祉職種間の垣根もなくなるでしょう。そしてエビデンスに基づく確実性の高い医療福祉サービス以外は許容されなくなり、多くの人々がより質の高いサービスを求める時代になると思います。

予防を主体とした質の高い医療によって不安のない未来を得られることがほぼ確実ならば、より高い健康価値を基盤とする患者さんの求めに応じて、医療福祉サービスにはさまざまな付加価値を発生させることができます。これらを実現するためにIoT、ビッグデータ、AIなどのテクノロジーの活用が必要となります。

また、2040年の医療のコンセプトの1つとして、価値に基づく患者・市民、医療者、保険者 (民間も含む)、政府の強い信頼があると思います。日吉

歯科診療所 (山形県酒田市) で実証されているように、歯科はメンテナンスを主体とした質の高い診療によって市民に健康の結果 (アウトカム) を出しながら、健康価値を高めることができます。今後予防医療はテクノロジーと協調して、予測医療の側面を強めていくでしょう。患者さんは正確な情報に事前に出会い、必要な時に自分に合ったサービスを選択できるようになり、医療者も本来必要な医療の提供に無駄なく集中できるようになります。

予防医療は治療と異なりアウトカムはすぐには目に見えてきません。毎日の積み重ねの後、10年、20年、30年後に真の価値となって表れます。そのような医療のあり方を歯科は発信し、社会との信頼を強め、一人でも多くの方々に未来の健康のための賢い選択をして頂けるようになることを心から願っています。

くまがい・なおた

2005年、新潟大学歯学部卒業。2009年、タフツ大学大学院修了後、2012年、米国歯科補綴ボード認定専門医。2016年より、日吉歯科診療所 汐留所長。2019年、未来イノベーションWG委員。